

## 季節特性から1月の株価を占う

- ✓ 新年を迎え、新たな気持ちで今後の1年を考える時季となってきた。「年が変わると相場つきが変化する」との見方も多い。
- ✓ だが、株価指数の動きでみるとどうだろうか。今回は日米株価の月間上昇率をもとに、1月の季節性についてラフに整理してみた。

年末で相場の方向性が変わるケースは意外に少ない。図表1では98年以降の日米株価チャート上に各年末の位置を「丸い点」で示しているが、99年の年末(=ITバブルのピーク)を除くと、年末が明確な屈曲点となったケースは見当たらない。10-12月の上昇率と1月の上昇率には緩やかな正の相関があり(図表2参照)、1月は年末までの相場の流れを引き継ぐ傾向があるといえよう。

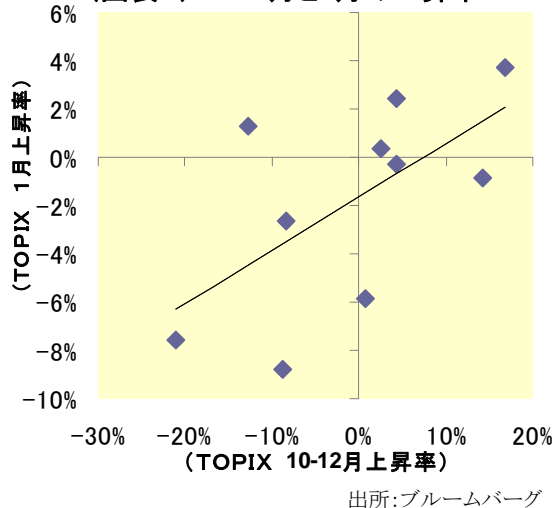
図表3は「各月の上昇率」と、その「直前3か月の上昇率」の相関係数を月別に示している。日米とも、1月と7-9月は相関係数が大きめのプラスで、相場の流れが比較的続きやすい月といえる。一方、3月から6月にかけては相関係数が低下しており、とくに4月は日米ともマイナスの相関係数となっている。相場の方向性が変化しやすいのは、12月の年末よりも、むしろ3月の年度末といえる。3月以降の相場には、今年も十分な警戒が必要だろう。

最後に月別の上昇率はどうか。90年以降の単純平均でみると、1-3月は日米とも株価が伸び悩みやすい時期にあたっている(図表4参照)。昨年までの上昇相場が継続するとしても、季節性だけから見れば、上昇ペースが一旦鈍化する可能性を示唆しているといえよう。

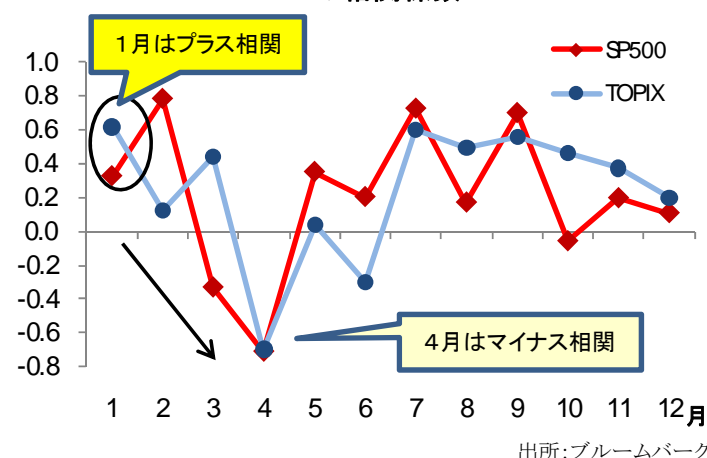
(図表1) 株価チャート上の年末の位置



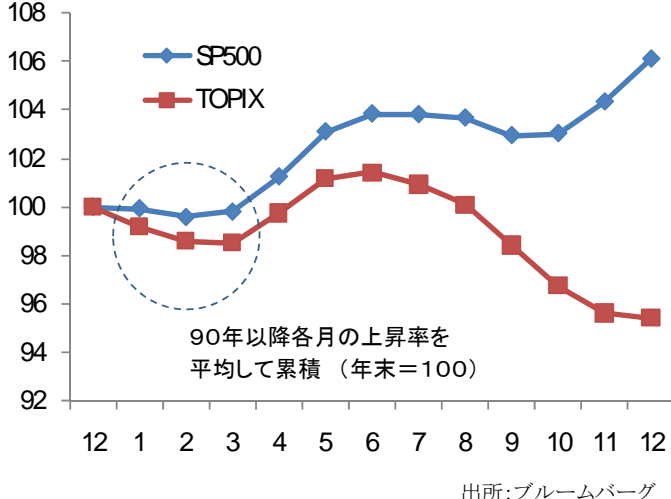
(図表2) 10-12月と1月の上昇率



(図表3) 各月上昇率と直前3か月上昇率の相関係数



(図表4) 株価変動の季節性



## ご留意いただきたい事項

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。
- 投資信託は値動きのある資産を投資対象としており、基準価額は変動しますので、これにより投資元本を割込むおそれがあります。ファンドによって投資対象資産や投資規制、投資対象国などが異なるため、リスクの内容や性質が異なります。また、投資信託のお申込時、保有期間中、およびご換金時には費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料に記載されている各指数、統計資料等の著作権・知的財産権その他一切の権利は、各算出先、公表元に帰属します。
- 当資料に記載されている内容は発行日現在のものであり、今後予告なく変更される場合があります。投資に関する最終決定はお客様ご自身でご判断ください。
- 当資料のグラフ・数値等は過去の実績であり、将来の市場環境の変動や投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。



ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第369号  
加入協会:(社)投資信託協会、(社)日本証券投資顧問業協会

